

第二成田記念病院 入院患者様へ

当院では下記に臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合に、下記問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題	「回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の帰結予測式 ～多施設データと単施設データで作成した予測式の精度比較～」 <後ろ向き研究>
当院の研究責任者	リハビリ室 室長 後藤健一
情報を提供する他の研究機関	穂の国脳卒中医療連携研究会
本研究の概要	<p>本研究では、穂の国脳卒中医療連携研究会の回復期リハビリテーション病院データを用いた退院時運動 FIM の予測式について、単施設データで作成した予測式と多施設データで作成した予測式の予測精度を比較検討しました。</p> <p>リハビリテーション医療・医学における普遍的な知見を得るためには多施設データが必要ですが、回復期リハビリテーション病棟における退院時運動 FIM（日常生活動作に必要な介助量を数値化した評価スケール）の予測式の作成にあたっては、多施設データで作成した場合に比べ単施設で調査した単施設データで作成した場合の方が予測精度は高くなることが本研究結果から示唆されました。</p> <p>多施設データでは、リハビリテーションの実施単位数の患者間の差異の大きさや病院間のリハビリテーションの質の違いが予測精度に影響していると考えられました。</p> <p>回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中患者の帰結予測は、退院後の状態を判断し、目標の設定を行う上で不可欠です。また患者さんや家族に具体的な情報を提供する場合には、適切な帰結予測が大変重要であると考えられます。そのため、個人の主観や経験論のみでなく、科学的根拠に基づいたより精度の高い帰結予測が望まれます。</p>
調査データの該当期間	2013年4月～2020年3月
研究対象・研究方法	対象は、2013年4月から2020年3月に穂の国脳卒中医療連携研究会参加施設の回復期リハビリテーション病棟を退院した脳卒中患者（脳梗塞・脳出血）。当院退院患者と、それ以外の回復期リハビリテーション病院の退院患者にわけ、それぞれで退院時運動 FIM の予測式を作成し、この予測式から得られた予測値と実際の点数である実測値

	<p>との相関と実測値から予測値を引いた残差を求めて、精度を比較しました。</p> <p>尚、個人情報 は全てデータ化して、個人が特定できないように処理したうえで分析を行いました。</p> <p>また、当院以外の穂の国脳卒中医療連携研究会参加施設からは、あらかじめ同意を頂いたうえでデータを提供していただきました。</p>
結果の公表	学会や論文で公表します
利益相反	本研究に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。
お問い合わせ先	<p>第二成田記念病院 0532-51-5666 (平日 9~17 時)</p> <p>担当者 後藤健一</p>